

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2375000375
法人名	医療法人名翔会
事業所名	グループホーム 和合の家
訪問調査日	平成20年8月6日
評価確定日	平成20年9月3日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2375000375
法人名	医療法人名翔会
事業所名	グループホーム 和合の家
所在地	愛知郡東郷町大字春木字白土1-1884 (電話) 052-807-6000

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年8月6日	評価確定日	平成20年9月3日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年11月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	4階建ての 2~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000・30,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	78 歳	最高	93 歳
協力医療機関名	日進おりど病院・山寺歯科医院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは3階建ての2、3階にあり、1階はクリニックになっており、老人保健施設が隣接している。周囲は木が多くゴルフ場の堤も見渡せ豊かな自然環境である。以前病室として使用されていた居室は広く、キッチンやトイレがあり広く長い廊下を歩くことでリハビリにもなる。入居者は日中3階のホールで職員や入居者同士で交わりを持ちたり、体操、趣味などそれぞれ過ごしている。ホームを第二の我が家と考え時間や趣味、日中の過ごし方など生活を制約することなく楽しく過ごしていただいている。隣の老人保健施設に書道など趣味の稽古やリハビリに参加し環境を変えての交流を楽しんでいる。入居者の方は思いやりがあり職員を労ったり、入居者同士で声をかけ合うなど交わりがあり、表情も穏やかである。職員は入居者の笑顔を増やすことに努めているが入居した時よりも穏やかな表情になり、素晴らしい笑顔も見られるようになったことに喜びを感じている。今後、レベル低下に合わせできるだけ下がらないよう職員同士協力し合い対応していきたいと考えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>災害対策について運営推進会議で報告し提案、意見をいただいた。それにより消防署と近隣の住民ボランティアに参加していただき、夜間想定避難訓練を実施することができた。今後も地域住民参加型の避難訓練を実施していきたいと考えている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が自己評価をまとめ職員に配布している。職員はそれを見て他の職員の取り組みを学ぶことができ参考になった。自己評価することでケアを振り返ることができ、改善する点も皆で話し合う機会になり意義あるものとなった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>外部評価の報告がされ改善に向けての話し合いで出席者から提案があり、協力いただき改善に向けて取り組んだ。事業報告や入居者の近況報告、質疑応答が行われている。6月には町の長寿介護課から「認知症地域資源モデル事業」について概要説明があり、コーディネーター的役割と情報収集にグループホームとして協力を依頼された。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族から意見や不安が出た時は、職員は管理者に報告し、管理者が改めて家族に直接聞き対応している。出された意見などは日誌に記入し職員全員に伝えている。体調に関する問題が多く、介護計画に取り入れている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>清掃活動に時間の余裕がある時は入居者と職員が一緒に参加している。町主催の盆踊りや夏祭りに参加している。小学校や幼稚園の運動会にも出かけ入居者は楽しんでいる。近所の方や家族から野菜や果物を頂き、入居者は季節を味わっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和き合いあいと暮らせる家」を基本理念とし、地域社会とのつながりを保つことを方針の一つとし開設時職員が皆で話し合いつくられた。ホームが地域で孤立せず溶け込み楽しく生活していきたいという思いからつくられたもので、地域に根ざした第二の我が家を目指している。その人らしさを大切にみんなの笑顔を増やすことも方針として日々ケアに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やリビング、廊下などに掲示されている。職員は常に理念を意識しケアに取り組んでいる。笑顔を絶やさず我が家のようにその人らしく生活できるよう支援し、入居者をいつでもフォローできるよう一人ひとりに目を向けることを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会は地理的に近隣と離れているため、近所のはからいで入会していないが、清掃活動には時間が許す時に入居者と参加している。町主催の盆踊りや夏祭りに参加しており、小学校や幼稚園の運動会にも出かけ入居者は楽しんでいる。近所の方や家族から野菜や果物を頂き、食しながら季節を味わっている。理髪店やスーパーもよく利用し顔馴染みになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は管理者と職員は話し合う機会を持ち、理解している。自己評価は管理者がまとめ、コピーして職員に配布している。これを見ることにより他の職員はどのように取り組んでいるかを学ぶことができる。自己評価することでケアを振り返り、皆で改善点について話し合う機会にもなっている。前回の災害対策については運営推進会議で提案があり、それを参考に協力していただいている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは東郷町福祉部長寿介護課、地域包括支援センター、民生委員、児童委員、ボランティア代表、家族有志で年4回開催されている。事業報告や質疑応答が行われているが、6月には「認知症地域資源活用モデル事業」について長寿介護課長より概要説明があった。認知症の人と家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう協力していただける地域資源の情報を収集し、有効な支援を行なう体制を整えるものでグループホームとしても協力して欲しいとの話があった。内容は和合の家だよりに掲載している。今後、家族会も含めて一緒に開催していきたいと管理者は考えている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>和合の家だよりを持参したり、年末に利用状況を報告に行っている。分からないことや困ったことがある時は相談に行きアドバイスをいただくなどいつでも相談できる関係にある。県主催の催し物や研修会などの案内、情報提供などホームへも積極的に関わっていただいている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会に来られた時に入居者の状況を伝えている。日常の様子やその月の予定、職員の異動、入居された方なことなど和合の家だよりで報告している。面会に来られない家族には管理者が入居者の様子や体調など手紙に書き報告している。金銭は面会に来た時に入金されるが、その折に出納帳を確認してもらっている。小遣い管理はホームで行っているが、半数程度は財布を持ち、買い物時など支払いをしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪された折に声をかけ、意見や要望を聞いている。あまり出されないが、職員が聞いた時は管理者に報告し、管理者から改めて家族に聞き対応している。家族からの意見は日誌に記入し職員全員に伝えている。体調に関する問題が多く、介護計画に取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は常勤がほとんどで開設時から勤めている職員が多い。新しい職員が入った時は慣れた職員について早番、遅番、夜勤などマニュアルに基づいて1カ月ほど学んでいる。新人職員はケアにあたって、不安にならぬよう入居者の個別情報を把握するようにしている。職員の交代は和合の家だよりで家族に報告している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	愛知県グループホーム連絡協議会の経験年数に合わせた研修に職員は参加している。出席した時はカンファレンスで報告し、資料をコピーし職員に配布している。併設の老人保健施設での研修会には案内をもらい、勤務時間内に参加できることもあり学ぶ機会を得ている。特に新人職員に参加を勧めている。ホーム内で訪問歯科医による口腔ケアの勉強会を行ったこともある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は愛知県グループホーム連絡協議会の研修に参加することで他施設の職員と交流し、色々な取り組みを学んでいる。管理者は町内のデイサービスやショートステイ、社会福祉協議会、グループホームの交流会に出ており、情報交換したりテーマを決めて意見交換をしている。町内のグループホームの管理者とノロウイルスや食中毒についての情報交換も行った。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は部屋がないため実施していないが、家族と一緒に見学に来て、リビングでお茶を飲んだり、皆と話をしながら馴染んでいただいている。家族だけの見学の時もあるが、管理者と計画作成担当者が自宅まで会いに行き、話をしながら生活歴や馴染みのものなどを聞いている。職員にも報告しているため、入居してすぐにホームに溶け込んでいる。併設の老人保健施設のデイケア利用者が入居されたこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のできることは自分で行ってもらい、できないことを手助けするという姿勢で入居者に接している。炊事や洗濯物たたみ、掃除などではできる力を発揮してもらっている。生活の知恵などを教わることがよくある。入居者は人を思いやる気持ちがあり、職員の体調を気にかけてくれたり、労わってくれることもある。介護している時など手を握り喜んでくれることがあり、家族のように信頼し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前に本人や家族から希望や意向を聞きアセスメントシートに記入して職員全員で共有し、その要望に対してどれだけ提供できるかについても話し合っている。本人からは日々会話の中で思いや意向を聞いている。把握が困難な方でも水分要求や排泄など今までの経験で表情から察することができる。常に入居者の個性を大切に支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に管理者と計画作成担当者が入居者と家族に面談してアセスメントを取っている。医師、看護師のアドバイスも受けて職員同士の申し送りや日誌などで確認し、短期目標や長期目標を決めて介護計画を計画作成担当者が作成している。入居者や家族の希望も聞き、計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は短期目標3カ月、長期目標6カ月とし見直しをしている。カンファレンスでの話し合いや日々のカルテ、申し送りなど入居者の状態から情報を収集している。状態に変化が生じた場合は随時見直しを行っている。介護計画書はカルテに添付されている。常時、入居者の要望や変化の記録を職員は把握できる。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者や家族の希望で医師と話し合い、訪問マッサージや併設の老人保健施設でリハビリを受けることも支援している。併設の老人保健施設に職員と出かけ習字、折り紙、生花を習っている入居者もいる。また、行事にも参加しており、老人保健施設の利用者と交流もある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の1階クリニックでの受診は月1~2回あり、入居者の状態によって往診を受ける場合もある。往診は歯科医師、歯科衛生士、週1回、皮膚科は月1回受けている。眼科や耳鼻科への通院は家族にお願いしている。家族が難しい場合には職員が支援することもある。医師や家族からは受診結果の報告を受けるようになっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について入居時に家族に説明し、意思確認をしている。入居者の重度化にともない、管理者が中心となり医師に相談しながら家族との連携を図り、職員とも話し合っている。医療機関との協力体制が確立しており、1階はクリニックが併設され、老人保健施設の看護師の協力も得られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人でプライバシーマークを取得している。入居者の居室に入る時は必ずノックをしている。トイレ誘導や食事介助の際にはさりげなく声かけをすることを職員全員が心がけている。リビングの一角にコーナーを設け、個人情報の書類や記入などはそこでやっている。入居時に入居者や家族に対してホーム便りに、写真の掲載や名前を載せることについて同意をもらっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は食事作りや畑仕事、絵かき、習字など生活習慣を大切に、個々のペースで活動している。希望者は毎朝ゴミ出しをしながら敷地内を散歩している。訪問時には、絵画に興味のある方から自室にある多くの作品を見せてもらい、裁縫の得意だった方が雑巾を縫っている様子から、その人らしい暮らしがうかがえた。また、畳の上で横になっている方や化粧品に余念のない方、食事作りする方など思い思いに過ごす入居者の姿が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を聞いて立てている。菜園で採れた野菜や家族からの差し入れなど食材の買出し確認も入居者と職員と一緒に楽しんでいる。また、食事も共にしている。調理や後片付けの作業は入居者の活力を活かしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望により毎日午後2時～6時、冬は午後8時に入浴する方もある。最低週3回は入浴してもらえるよう支援している。季節ごとに入浴剤も使用し楽しんでもらえるよう心がけている。入居者の状態に応じて、併設の老人保健施設の機械浴を使用することもある。浴室は滑り止めがされ、中央に浴槽があることから入りやすい。衣料棚は個別名入りのカゴが用意されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや取り入れを入居者が行っている。調理をしたり、野菜畑の手入れ、草取りなど入居者に役割をもっといただいている。花を生けたり、行事のポスターの絵を描く方もあり、その人のできることを、やりたいことなどを楽しんでもらえるよう職員も一緒に見守りながら支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お花見や潮干狩り、外食、スーパーでの買い物、床屋、毎日の散歩、ゴミ出しなど気分転換やストレス発散を職員と一緒に支援している。あまり外出を好まない入居者には、職員と一緒に併設の老人保健施設に飲料水を買に行ったり、リビングに飾る花を受け取りにいくなど環境を少しかえることで気分転換を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居間には鍵はかけていない。エレベーター前の入り口にセンサーマットを置いて、人が通ると音が鳴り、職員は見守りながら対応している。帰宅願望のある入居者には居間入り口に飾られている写真(個人、行楽など)を見ながら話題を変えて対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、消火訓練は年2回(4月、9月)に実施している。4月には夜間を想定して行い、入居者や職員、役場職員、家族、地域住民、看護師、消防署の協力のもと実施された。地域の方に声をかけるととても協力的であった。災害時の備蓄品(米、水、缶詰など)を居間に用意し、皆が見える場所に置いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、併設する老人保健施設の管理栄養士に献立を年3回チェックしてもらいアドバイスももらっている。入居者の食べたい物も献立に取り入れながら、糖尿病など食事制限のある方には調理方法など管理栄養士にアドバイスももらい工夫している。水分補給は1日2を目安としている。月1回、体重測定を行い健康管理に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い二面の窓からは、山や自然豊かな丘が見える。リビングは調理場、食事ができるテーブルとサロンコーナーと広々としている空間になっている。ソファでテレビを見ている方や畳スペースで横になったり、雑巾を縫っている方など思い思いに過ごしている姿が見られた。入居者が描いた絵画や習字の作品が入りに飾られている。また、入居者の昔一番楽しかった思い出の写真も飾り、入居者の帰宅願望が強くなった時や不安になった時に、写真を見ながら話をする事で心穏やかに過ごせるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口の名札は、墨の自筆や孫の手作りでカラフルな物が飾られていたりするものもある。居室内には仏壇や家族の写真、馴染みの家具、ミシンなども置かれている。下肢に不安のある入居者には、転倒防止のためセンサーマットを使用し、職員がすぐに対応できるようにしている。職員の目が行き届いており、居室でも入居者が居心地よく安心して過ごせるよう配慮されている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。